

平成 26 年度水産研究成果情報

課題名:サルボウの成長に及ぼす死殻の影響

[背景・ねらい]

サルボウは有明海佐賀県海域における有用な二枚貝類で、その漁獲量は平成 10 年頃までは 1 万トン前後で推移していたが、最近では各年により漁獲変動が大きく 1 千~8 千トンで推移している。この漁獲量の変動は、夏場の貧酸素水塊の発生による大量斃死が大きな要因として考えられる。こうした大量斃死により、サルボウ漁場内には大量のサルボウの死殻（以下、死殻とする）が堆積し、その死殻によるサルボウの成長への影響、さらには漁場としての生産力の低下が危惧される。こうしたことから、今回、サルボウの成長に及ぼす死殻の影響について検討した。

[成果]

平成 26 年 12 月から平成 27 年 3 月までに図 1 に示す地点に沈下カゴ (49cm×49cm×30cm) を設置し試験を実施した。沈下カゴは、図 2 のとおり二つに仕切り、それぞれを死殻有区 (死殻を厚さ 10 cm に敷き詰めた試験区) と死殻無区とした。両試験区には、サルボウ 40 個ずつを入れて日間成長 (殻長及び全重量) を比較した。

その結果、死殻無区の日間成長は死殻有区に対し殻長が約 1.1 倍、全重量が約 2 倍となった。このことから、死殻が堆積している漁場では、堆積した死殻がサルボウの成長を阻害し、漁場の生産力を低下させていることが示唆された。

[課題・問題点]

- ・本試験により、死殻がサルボウの成長に影響を及ぼしている可能性が示唆されたが、サルボウ漁場での検証や死殻が堆積した底質環境について調査する必要がある。

[今後の対応]

- ・サルボウ漁場における死殻除去の効果をサルボウの成長や底質環境の調査により検証する。



図 1. 試験実施地点



図 2. 沈下カゴ

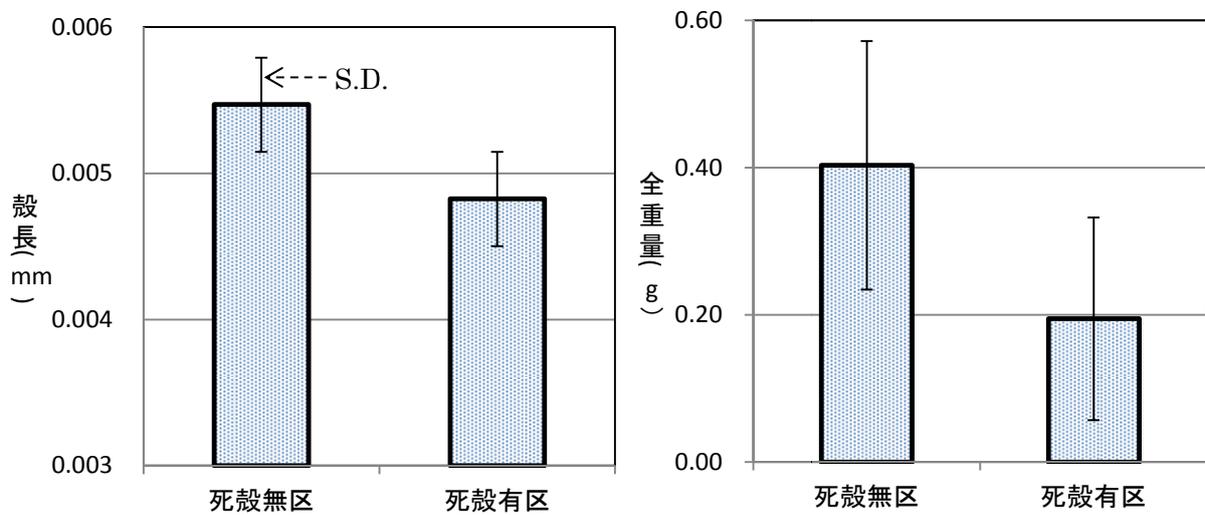


図 3. 死殻無区および死殻有区におけるサルボウの日間成長 (殻長及び全重量)

[その他]

研究期間: 平成 26 年

研究担当者: 普及担当 津城啓子